

西暦2100年には世界の人口が4倍に 国立人口統計学研究所発表

20日（水）、フランス国立人口統計学研究所（l'Institut national d'études démographiques、以下INED）は、いまから33年後の2050年には世界の人口は現在の75億人から1.3倍の100億人に達すると発表しました。

「Tous les pays du monde（世界のすべての国）」と名付けられた2年間に及ぶこの調査によると、大きな原因の一つとして、アフリカ大陸の驚異的な人口増加をあげています。2017年現在、アフリカ大陸には12億人の人々が暮らしていますが、2050年には25億人、2100年には44億人にまで増加するとみられています。

INEDによると、現在、最も出生率の低い国は台湾と韓国で、女性一人当たり1.2人、最も出生率の高い国はアフリカのニジェールで7.3人。先進国では出生率が低下している傾向にありますが、出生率の高いアフリカ、中東、西・南アジア諸国との差は、ますます広がる傾向にあります。

また、最も人口の多いのは中国の13億8000万人、次いでインドの13億5000万人ですが、出生率が中国が女性一人当たり1.8人、インドは2.3人で、2030年までにインドの人口は中国を抜くとみられています。

執筆：Daisuke

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。

いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

